

令和6年度 第7回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 令和6年11月18日（月） 10時00分～12時20分
- 2 場 所 市役所本庁舎 5階 第5会議室
- 3 出席者 委員15名（欠席2名）
対 面：池田、栗城、高瀬、中林、眞壁、水谷、山元、渡辺
オンライン：糸賀、恵利、川渕、小出、菅沼、田中、福元
(委員、敬称略)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 健康都市やまと総合計画・前期基本計画に関する施策の進行管理について
 - (2) 新大和市総合計画案の変更部分等について
 - 3 その他
- 6 会議資料
 - 資料 1 : 健康都市やまと総合計画・前期基本計画 令和6年度 施策の進行管理（令和5年度実績について）
 - 資料 2 : 健康都市やまと総合計画・前期基本計画 令和6年度 施策の進行管理（令和5年度実績について） 成果を計る主な指標の実績値
 - 資料 3 : (案) 新大和市総合計画（第10次大和市総合計画）

【議 事】

- 会長 : 議題(1)健康都市やまと総合計画・前期基本計画に関する施策の進行管理について、説明を求める。
- 事務局 : **【資料1、2について説明】**
- 委員 : 小学生の不登校が増えているということを新聞で読んだ。こうしたことを踏まえると、資料1の進行管理資料には、中学生の不登校生徒の改善状況だけでなく、小学生の不登校児童の改善状況についても触れるほうが時宜を捉えているのではないかと思う。
- 事務局 : 資料1には、令和4年度と令和5年度の実績を比べたときに、低下幅が大きかったものをまとめている。
全国的にみて小学生の不登校が増えていることは承知しているが、資料2の指標49番のとおり、大和市における小学生の不登校の改善状況は、令和4年度から令和5年度にかけて上昇しているため、資料1には掲載していない。
- 委員 : 指標87「市民農園区画数」と指標132「援農サポーターの登録者数」について、何かお互いにリンクしているのか。
- 事務局 : 援農サポーターは、営農者のお手伝いを行うボランティアであり、市民農園をお手伝いするものではない。そのため、直接的なリンクはないと考えている。
- 会長 : 市民農園を頑張っている人が、援農サポーターに登録しているということはあるかもしれないが、関連性は低いのかもしれない。
- 委員 : 成果を計る主な指標は、資料2で提示されている項目だけなのか。超高齢社会において、一人暮らしが増え、空き家も増加している状況を見ると、空き家に関する指標があってもいいのではないかと感じる。
- 事務局 : 空き家に関する指標は、現総合計画、新総合計画のどちらにおいても設けていない。ただ、指標を設定している基本計画は、基本的に5年ごとに内容を見直すので、その際に、直近の状況を考慮して新たな指標の設定などについても検討したいと考えている。
- 会長 : 指標は、計画に定めている施策が順調に進んでいるかどうかを評価するために設定するものである。なぜ今まで空き家に関する指標がなかったかということ、これまで大和市では、空き家対策を施策の柱として取り組んでこなかったためではないか。今後、空き家対策が施策の柱となるのであれば、指標を設定することになると思う。
- 事務局 : 空き家対策については、現在、個別計画を策定しているところであり、来年度から新たにスタートする予定である。この中では、指標を設けて進行管理していく形になっているところである。
なお、大和市は、全国と比べると空き家の数が少ないという状況であると聞いている。
- 委員 : 今回、各指標に対して増減理由を分析しており、例えば、市民活動センターに登録している市民活動団体減少の理由について、同センターでは大きな音が出せないという制約があり、登録団体が減った可能性があることを記載している。この分析を受けて、改善に取り組まなければならないということはもちろんあるが、そもそも改善が難しいようにも思う。そうすると、指標として適切なのかという疑問が出てくる。

- 事務局 : 適切な指標は何かという点については、これまでも当審議会であくさんのご意見をいただいていたところであり、そうしたご意見も踏まえ、新しい総合計画の指標を見直したところである。しかしながら、めざす姿の達成状況を適切に表すことができる指標の特定は難しく、今後も進捗管理を行うなかで、各指標の実績を把握しながら、よりふさわしい指標を設定できるようにしていきたいと考えている。
- 委員 : 資料１の増減理由の中には、その指標によって評価しようとしても取り組み以外の外的要因の影響が大きく、当該指標が不適切ということ、自ら示しているように見えるものもあるので、今後も適切な指標設定についての議論が必要であると感じた。
- 委員 : 資料１に記載している低下の割合が比較的大きい指標に関する考察の根拠を知りたい。具体的には、指標３番「高齢の方が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合」について、新型コロナが５類に移行したことで、地域の外で活動する機会が増えたためとしているが、地域外で活動する機会が増えたというのはどのように調べているのか。また、指標４０番「児童生徒の１か月の平均読書冊数」について、読む量よりも内容を重視する児童生徒が増えたとしているが、これもどのように確かめたのか。しっかりと進捗管理をするのであれば、記載していることの根拠も示さないといけないが、どうか。
- 事務局 : 次に、同じく指標３番の考察で、新型コロナが５類に移行したので地域外で活動する機会が増えたと説明していることについて、これはつまり、新型コロナが収まり日常に戻ると指標が減少するということであり、そもそも指標として妥当ではないと考えられるがいかがか。
- 事務局 : 指標３番について、考察の記載内容に定量的な根拠があるわけではない。各指標の増減理由を正確に特定することが難しいなかで、可能性が考えられる理由について推測したものである。増減理由について定量的な根拠を示すとなると、これまでよりも深い分析をしていく必要があると思うので、今後の課題とさせていただきたい。
- 委員 : 指標４０番については、学校図書館司書が、児童生徒に借りられている本の傾向を調べ、図鑑など知識を蓄えられるような本や、長めの物語の貸し出しが増加しているという状況をもとに考察したと聞いている。
- 委員 : PDCA サイクルを回すうえでは、指標の増減を分析し、その理由を正確に把握して次のアクションにつなげていくことが重要だが、理由が推測では、改善策も根拠なしに進めていくこととなり無駄が多くなる。また、指標３番について、資料に記載の理由では、指標としての妥当性があるとは言い難いので、正確な根拠を求めていくとともに、よりふさわしい指標への見直しも含めてご検討いただきたい。
- 会長 : 大和市では、一部の指標として市民意識調査の結果を使っている。例えば、指標３番のように、地域の人がどう行動していると思うかを聞くものもあるが、これでは回答者は評論家になってしまい、エビデンスが得られない。エビデンスを求めるのであれば、回答者自身がどう行動しているかということと、回答者からみて他の市民がどう行動しているかを分けて質問しなくてはならない。そうして出てきたデータを分析することによりエビデンスが得られる。つまるところ、今の市民

意識調査のやり方が良くないと感じる。

また、指標３番は、地域のことを指標として掲げているのに、増減理由には個人に関することが書かれており、別次元の話になっていることも違和感を覚える。

市民意識の増減については、毎回同じ人を対象に調査を実施しているわけではないことを踏まえると、１パーセント程度は誤差で、変化なしと捉えるくらいでなくては、今後、評価がつかなくなるかもしれない。市民意識のほかに、客観データも指標としており、こちらの増減理由は、各所管課が取り組む中で実際に感じていることを記載していけばいいと思う。

こうしたことを踏まえると、今回の進行管理は、増減理由を細かく見るというよりは、指標の上下の大きなトレンドを把握していくことしかできないと感じる。今後、市民意識調査については、調べ方を工夫していくこと、客観的データについては、所管でしっかり整理することに取り組んでほしいと思う。

委員：会長のいうとおり、市全体、地域全体が変化しているかどうかを間接的に聞く指標について根拠を得るには限界がある。調査費用の課題はあるが、可能であればパネル調査、つまり、市民の中から協力者を募り、その人がどのように変化するか、また、その人から見て市全体でどのような変化がみられるかを継続的に調査していけば、変化がより正確に把握できる。そのかわり、調査対象者数は減らし、一人当たりの調査コストは高めていくことになるのではないか。

前期基本計画はこの指標でスタートしたので、この指標を使って進行管理をしなくてはならないが、新総合計画の進行管理にあたり、先ほどの会長の指摘も踏まえて調査のやり方などを工夫するのであれば、パネル調査も一つの選択肢として考えてほしい。

会長：大和市にはモニター制度はあるか。もしあれば、その制度を活用して調査ができないか検討してみてほしい。

事務局：新しい総合計画では、その進行管理において、意識調査による主観的なデータと、客観的なデータを準備していこうと考えており、本日の意見も、参考にさせていただきたいと思う。

会長：実績として１００％が継続している指標や、待機児童のように０人が継続している指標は、全て「向上」とされていると思うが、これはなぜか。

事務局：１００％を継続している指標などは、それを継続するためにしっかり取り組んだことを評価し、「向上」として整理している。

会長：今回の進行管理が、令和４年度から令和５年度の変化を見ているということであれば、１００％が続いた場合には「横ばい」とする方が良いと思う。一方で、令和４年度から令和５年度では「低下」とされているが、最終目標値を上回っている指標もあり、それを「低下」と評価するのも少し違うのではないか。今回は、令和４年度から令和５年度の変化が表示されているが、それだけでなく、最終目標に対してどの程度進捗しているかという視点も含めて示した方が、課題や施策に対する評価をしやすと思う。

- 事務局 : 現総合計画の計画期間は令和6年度までとなっており、来年度には評価を行うこととなるので、その際の参考とさせていただく。
- 委員 : 今回、基本目標ごとに指標の変化状況を「向上」、「低下」、「維持」に振り分けて表示しているが、例えば、「基本目標1いつまでも元気でいられるまち」において、「向上」が7、「低下」が8、「維持」が0、実績値なしが2となっていることを踏まえ、基本目標1全体をどう評価しているのかが伝わってこない。また、100を超える全ての指標を同じ重みで見ているような気がするが、本当はそうではないと思う。
指標の変化の状況をもって、どのように目標達成の状況を判断しようと考えているのか教えてほしい。
- 事務局 : 基本目標の評価は、基本目標のもとに設定している指標が、最終的にいくつ目標値を満たして、いくつ目標値まで到達しなかったのかという実績をもって評価をしていくものと考えている。今回は進行管理ということで、「向上」「低下」「維持」で指標を分類し、各目標に対する進み具合をみていただければと考えていたところである。
- 委員 : 基本目標を評価する場合、そのもとに設定された指標が全て目標値を達成すれば、100点満点という考え方でいいか。
- 事務局 : そのように考えている。
- 委員 : 個人の意見としては、さきほど言ったように、各指標は重み付けが違うと思うので、例えば、指標のうち半分以上が目標を達成していればいいというような考え方ではなく、低下した指標もあったが、重要度の高い指標は目標を達成できており、取り組みはしっかりと進んだという考え方をしてもいいのではないかと感じている。そのため、市民意識調査を行うのであれば、個々の指標に対して調査するよりも、基本目標に対して調査を行った方が良いのではないかと考えている。
- 事務局 : 今回は進行管理ということで、進捗状況をお伝えするような形としていくところである。評価ということで考えると、これまで大和市では、めざす成果レベルの評価をしており、基本目標レベルでの評価はしていないので、ご意見は今後の施策評価等の参考とさせていただきたい。
- 委員 : 今後の評価については、次回以降の審議会に持ち越しになると思うが、今年度の進行管理については、各指標の増減理由を整合性が取れたものに修正した方が良いのではないかなと思う。例えば、指標104番の「図書館の年間来場者数」の増減理由では、新型コロナの5類移行に伴い、外出する人が増えたとあるが、指標3番の増減理由で、新型コロナが5類に移行して地域内で活動する人が減っているとしていることと矛盾していると思う。こうした矛盾が他にもあるので、全体として整合がとれるような理由にした方がよいのではないかな。
- 会長 : 指標3番は意識調査の結果であり、回答者がどのように考えて回答したか分からないので増減理由がはっきりしない。一方で、指標104番は客観データであり、増減理由も推測の域は出ないものの、現場の感覚として書かれたものであり、内容としてもありうるものと思う。

- 事務局 : 意識調査の結果に対しては、先ほどからご意見をいただいているように、今の状態で増減理由を断定するのが困難であると感じる。そのような中、進行管理の資料とするうえで、推測であっても増減理由を記載すべきと判断したところであるが、意識調査の結果については、その根拠を特定することが特に難しいことを踏まえると、理由は示さないようにすることが適切だったのかもしれない。
- 会長 : 意識調査を指標にすることには難しさがあり、指標３番のように、本人以外のことについて聞いてしまうと、数値の増減の理由が分からないので、施策をどのように改善すればいいかもわからなくなる。つまり、費用をかけて調査を実施する意味が全くなくなってしまう。そうならないよう、施策にうまく反映できるような指標として活用していく工夫をしなければならぬと思う。
- 委員 : 賛否はあると思うが、資料に増減理由の記載がなければ、市側から指標の増減に対する何かしらのコメントが必要であるという話になり、委員としても市側の考え等があった方が意見を出しやすいと思う。例えば、私の意見としては、指標４０番「児童・生徒の１か月の平均読書冊数」について、子どもを持つ人間としては、本をもっと読んでほしいというのが単純な思いで、本の質より本の増加を求めたいと考える。それについて、市役所の所管部署が今後どうするのか、大和市はどのような施策に取り組んでくれるのかがとても気になる。
- また、先ほど空き家の話を出したが、空き家は、元々家族と暮らしていて、子どもたちが育ち夫婦だけになり、夫婦のどちらかが亡くなって一人暮らしになって、その方が病院や高齢者住宅に入ったりすることで発生する。空き家が発生するということは、自治会の加入率の低下や、犯罪の増加、火災の発生など、様々な分野に影響が出てくるはずである。それぞれ、個別に考えると部署が分かれているが、実はすべてのことがつながっているので、横ぐしをさして施策に取り組むということ、行政に期待したいと思っている。
- 会長 : 議題（２）新大和市総合計画案の変更部分等につい、説明を求める。
- 事務局 : **【資料３について説明】**
- 委員 : 新総合計画に関し、タウンミーティングやパブリックコメント、パネル展などで、市民からたくさんの意見が出ているが、計画に反映したのは５箇所だけなのか。
- 事務局 : タウンミーティングなどでいただいたご意見は、個別具体的な取り組みが多く、大きな方向性を示す総合計画に反映することが適当な内容としては、さきほど説明した５箇所となっている。
- 委員 : 幅広く意見を聞くというのはいいことだと思うが、意見の中身を精査して、できるだけ計画に反映していくことが大切であると思う。
- 例えば、先ほど別の委員から、小学校の不登校について言及があったが、新総合計画ではどのように表現しているか。

- 事務局 : 資料3の43、44ページが学校教育の分野になっており、現状と課題で不登校について言及するとともに、44ページにある「めざす姿2-2 確かな学力と健康な心身が育まれている」の主な取り組みに、「不登校児童生徒への支援及び不登校への各学校の対応力の向上」を記載しているところである。
- 委員 : 不登校が小学校でも広がっているという課題は、新聞でも広く周知されているので、こうしたトレンドは素早く捉えて対応していくというのも一つの方法であると思う。
また、幅広く多くの意見を収集したのはいいが、数が多すぎてうまく整理できていないように感じた。意見をただ聞いただけという形になってしまわないように、もっと情報を整理した方が良いと感じた。
- 会長 : 意見をいただいた市民に、どのように市の対応を返していくかというところ、今回収集した意見をホームページで公表すること以外に、何かあるのか。
- 事務局 : 総合計画では、大きな方向性を示すというところで、いただいたご意見一つ一つを掲載していくのは難しく、また、ご意見のなかには既に総合計画に包括しているものもあったため、反映している箇所が少なく出ている状況である。
いただいたご意見は多岐にわたるので、庁内ですべて共有し、各事務事業を進めていく中での参考にすることとしている。また、新総合計画に対する意見としてホームページ上にも公表するので、大きな意味では計画に反映しているものと考えている。
- 会長 : 市民の意見について、どの施策分野、どのめざす姿に反映、参考とされているかが分かるように整理することはできるか。
- 事務局 : いただいたご意見が多いので、タウンミーティングなどは、関連する施策分野での件数をまとめている。
- 会長 : タウンミーティングの意見は日付ごとにまとめられていて、施策分野ごとにどのような意見があったかを見るのが難しい。そのため、例えば、各意見の横にA、B、Cなどの符号をつけ、防災分野の意見を見たい方はAを調べてもらうというように資料を加工し、ホームページに掲載する方が、意見を出した人にとっても、自分の意見がどの施策とつながりを持っているかを知ることができ、分かりやすくなると思う。
このタウンミーティングは、5年後の基本計画の見直しの時までやらないのか。
- 事務局 : タウンミーティング自体は毎年実施する予定であるが、総合計画をテーマとするのは5年後になろうかと思う。
- 会長 : 今回、タウンミーティングやこどもミーティングは、新しい総合計画のために実施したのだから、その意見がどういう分野に関係しているのかを知っていただくためにも、丁寧に対応した方が良いと思う。
- 事務局 : ホームページでの意見の公表の仕方は検討させていただきたい。
- 会長 : 意見を出した方からすると、意見と施策のつながりが見えなければ、行政が意見を聞きっぱなしにしているように見えるのではないかと。

- 事務局 : こどもミーティングに関しては、児童生徒に協力いただいたお礼とともに、市内全小中学校へ総合計画書を配布する形で、自分達の意見がどのように反映されたか、確認いただきたいと考えている。
- 委員 : そのやり方で、本当に小中学生に伝わるのか疑問である。熱心に意見を収集するのは大変いいことで、新しい市の方針として若い方の意見も聞いていこうというのであれば、やはりそれには丁寧に答えていくことが必要になると思う。
- 会長 : また、こういうタウンミーティングなど、いろいろな意見募集に参加してくれた市民の中から、先ほど話にも出たような、モニターになってもらうというのも一つの考え方だと思う。
- 事務局 : 今回のマーケティング課という、市民ニーズを捉えて施策に反映しようという組織を作ったのだから、しっかりと市民に返せるようなことをやるべきである。
- 事務局 : タウンミーティングは、市長と直接対話をする場所であり、その場で答えていることもある。また、なかなかお答えが難しく、これからの取り組みの参考にするとする場合もある。会話の中から拾ってきた意見であるので、このような形で集約し、行政がしっかりと受け止めて市政を行っていくというのが一つの回答ではないかと考えている。
- 会長 : 新総合計画の策定に参画する総合計画審議会としては、意見と政策のつながりをしっかりと示してほしいと思うし、これまでと違う、市民に開かれた市民目線の姿勢を示していくうえでも、市民への公開が必要なことであると思うので、検討してほしいと思う。
- 委員 : 今回の、市政世論調査の調査票が参考資料として配布されており、6ページからはじまる意識調査部分が、新総合計画の指標として使われる部分ということになる。これをみると、回答者自身の意識を聞く質問が10項目ほどある。このような質問を通じて、例えば、健康づくりの施策で、実際に取り組んでいる人のボリュームを把握してこそ、もっと上げるにはどうすれば良いというところが見えてくるのだと思う。そういう意味で、先ほども話した通り、「あなたは」と聞くことがとても大事であると思う。
- 委員 : 市政世論調査について、質問項目を見ると、「あなたは」と「あなたの地域では」と「大和市では」の3つの質問が入り混じっている。こういう場合は、まず「あなたはどうか」をまとめて聞いて、次に「あなたの地域ではどうか」をまとめて聞いて、最後に「大和市ではどうか」をまとめて聞くというやり方の方が、回答者が頭の切り替えをしやすいと思う。ただ、すでに、この順番で実施しており、今後の結果と正しく比較するためには、このままでしょうがないかもしれないが、答える側のことを考えると、並び替えた方が良い。
- 委員 : 次に、先ほど少し話が出た不登校の子どもの問題について。今や全国的な課題となっており、大和市の教育委員会でも様々な検討をしていると思う。このため、資料3の44ページの主な取り組みには、「不登校への各学校の対応力の向上」と記載されているが、不登校は、学校だけではなく、地域と共に取り組む課題である。不登校の子どもがどこにいるかというと、図書館や公共の学習室のほか、ファストフードのお店で時

間を潰していることも多い。そして、そのことを学校が知っているとなると、余計頑なに学校に行かなくなる。そのため、各学校の対応力というよりは、地域の中でそういう子どもたちを温かく見守る、無理に学校行かなくてもいいという姿勢を地域全体で示していく必要がある。すでに大和市の教育委員会で検討しているかもしれないが、各学校にだけ任せるのではなく、地域全体で温かく受け入れていくことについて考えた方が良い。

- 会長 : 私も、質問項目の並び順は気になっていた。来年度は、「あなたは」と「あなたの地域では」と「大和市では」を区分して、1度調査を実施してみて、結果がどれくらいばらつくかを検証し、どちらか良い方を、以降も使っていくことでいいと思っている。
- 委員 : どちらのやり方が良いかを検証する際、「わからない」を選ぶ人の割合がより少ない方を選ぶのが良い。質問が混在すると、答える側はわからなくなる。
- 会長 : 「わからない」があると無回答を防ぐことになる。まだ1、2年しか大和市に住んでいない人は、地域のことであっても「わからない」を選択すると思う。施策の成果を評価する際は、そういう人を除いて考えなくてはならないかもしれないのだが、そのあたりも含め、次回の調査でばらつきを見て、以降のやり方を決めていくということで良いと思う。資料3である新総合計画の案の内容に対しての意見もあったが、どのように扱うか。新総合計画の内容について、新しい委員も含めて確認するような時間はあるのか。
- 事務局 : 資料3の21ページから26ページまでの基本構想部分は、12月議会で議決をいただいて決定となり、その後速やかに、基本計画を含めて内部決裁を得て策定という形になる。そのため、事務手続き上、現時点での意見の反映は難しく、今回は新総合計画策定の状況についてご報告させていただいたということでご理解いただきたい。先ほど委員からいただいたご意見については、今後事務を進めていく中での参考とさせていただきたい。
- 会長 : 事務局からあったとおり、資料3の計画内容は報告ということで取り扱うこととする。
本日の意見については、議事録に残ることになると思うので、今後の大和市の行政運営の参考にさせていただければと思う。

以 上